



東京都葛飾区 新小岩南地域まちづくり協議会
事務局次長 伊藤 雅良

1 はじめに

東京都葛飾区新小岩地域を担っている消防団は、葛飾区の消防団の中で一番団員数の少ない分団です。明治12年に組織された下小松消防組の時代（現在の新小岩）は、農村地帯でした。今では、屈指の商業地として農村の面影はありません。激減する消防団員、しかし、必要とされる消防団員をどのようにすれば集められるのか、地域特性を踏まえ消防団と一緒に方策を検討しました。

当会は、東京都の震災復興模擬訓練、新小岩地域防災会議の設立、避難所開設訓練など地域の自治町会、商店街と関係諸団体が合同で防災力向上に努めています。又、東京都の地域の底力発展事業助成を活用し、訓練をしながら簡易無線機やスタンドパイプの整備を図っています。商店街イベントでも、防災パレードやスタンドパイプ、AED設置など一つ一つ課題解決をしています。しかしながら、消防団員は、一向に増えない中、一つの



防災フェスタ

ヒントを見つけました。平成13年総務省消防庁消防課の検討報告書に、消防団は「地域防災面の活動だけに止まらず、福祉や環境保全、芸術文化など、他の分野の活動についても、消防団の業務と連携づけることによって、地域密着性をより高めていくことが必要であろう。」と記されています。

ここから、新しい取組が始まりました。

2 マンション居住の方とのふれあいの場づくりの工夫

消防団員の募集活動は、自主活動・自治町会や商店街など地域団体に紹介を依頼していましたが各団体とも担い手づくりに苦慮しているのが現状です。しかし、住民が少ないかというところ東京駅から15分という好立地にある新小岩は、マンション、戸建てが多く建設され住民も増加している一方、自治町会への加入は停滞しています。

担い手となりうる方は、地域に多くいるが地域コミュニティとの接触が少ないことがわかります。更に、消防団と接触する機会は、先ずなかったのです。この課題を少しずつ解決することは、地域活動への参画も促すことができるということでした。毎年の盆踊り練習会も自治町会で開催する他、子育て世代を対象にした盆踊り教室や和太鼓教室、花と緑の松南の森プロジェクト、えきひろフェスティバル、文化祭と当会主催イベントに体験会を多く取り入れ、消防団員を常に参画



盆踊りの発表



防災クッキング

させ日頃から応急救護や消防団の話しをする機会を持つことにしています。

3 伝統芸能体験と地域イベントを活用

文化庁伝統文化親子教室事業を活用した夏休みの盆踊り教室は、3年目となり多くの子供達と保護者の参加を頂いており、消防団の応急手当普及員の同席や国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金を活用した和太鼓体験教室では、下小松消防太鼓曲での練習を消防団員と一緒にするなど気軽に話せる、顔の見える関係づくりを図っています。地域イベントの消防団屋台では、教室に参加してくれた子供達や保護者から名前を呼ばれるようにもなりました。

平成29年11月開催の第18回新小岩文化祭は、伝統芸能体験に参加してくれた保護者の方々が運営委員として「防災マジックショー&防災クッキング」を企画、消防半纏で消防太鼓の発表をしてくれました。平成30年3月には、商店街主催の「消防団応援！日本民謡祭」が新小岩駅前広場で開催され、新曲下小松消防木遣りくづし、下小松甚句、下小松消防太鼓を子供達、保護者、地域防災関係者で披露します。



消防和太鼓の発表

4 結びに

消防団員の方々は、日常のお仕事の傍らポンプ操作、応急救護、その他資機材の点検や地域イベント警戒など自治町会や商店街などからの依頼も多く、防災リーダー・まちづくりリーダーとして期待されています。今後は国や東京都で、防災面以外の環境や伝統文化活動などへの取組に対する方策がより検討されれば、地域と共に活動ができると考えています。

当会は、「顔の見える関係づくり」こそが、最大の防災力の向上に繋がると考えています。